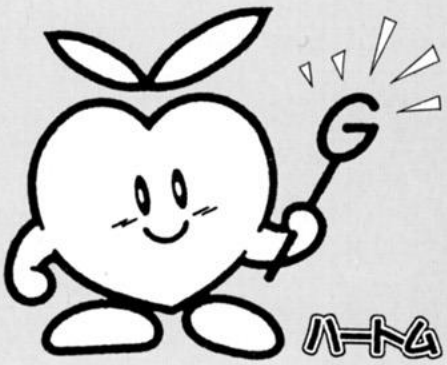
人にやさしい街づくり



「人にやさしい街はどんな街？」をテーマに市民ワーキングの皆さんに議論していただきました。これまでに、高齢者グループ、青年グループの提言を紹介してきました。
今回からは、女性グループの皆さんの提言を掲載します。
なお、紙面の都合で、一部要約してあります。

市民ワーキング活動報告3

《女性グループ・午前の部》
広浜洋子　城美智子　服部政世　浅井なお枝
小林基子　日恵野佳代　本多公子　〔敬称略〕

《テーマ》
子どもにやさしい街づくり

はじめに

街づくりは、ハード面はともかくとして、市民一人ひとりの手で支えられているといってもいいのではないでしょうか。一人ひとりの意識が変わることが、街を変えていく大きな原動力になります。

私たちのグループでは、「街づくりは人づくり」という考えのもと、そのもっとも大切な、未来を担う子どもたちについて話し合ってきました。

子どもたちが、安心して伸びやかに育つ街づくりをめざし、心身ともに健康で、感性豊かな子に育てるために、子どもたちを取り囲むさまざまな環境を見つめてみました。

やさしさからのスタート
＝子どもの権利条約の実現を＝

子どもの現状で、とても気になることは「いじめ」のことです。子どもにとっても身近に感じていることです。

人が人にやさしくなれるときを考えてみると、「いじめを無くすためには」より「やさしい気持ちが育つには」というところから考える必要があります。

人の痛みをわかる子どもになってほしい。子ども同士は無邪気でかわいい反面、残酷な所がある。自我の強い子どもなら、なおさら。人から言われていやだと思ったり、人からされて悲しかったり、悔しかったりした時は、相手の子どもを批判するのではなく、自分がいやだと感じたことを他人にはしてはいけない。人から受けた痛みを他人にぶつけるのではなく、痛みは痛みとして受け止め、人を思いやり、やさしく接することのできる子になってほしい…。

ところで「子どもの権利条約」を子どもたちに読んでもらい、感想を聞いてみました。

「ここに書いてある条約が本当に守られるのだったら世界の子どもは幸福に生きることができる」「子どもの権利のために自分たちも努力したい」「いいことも書いてあると思った」「子どもも一人の人間だということが尊重してある」「子どもの権利条約があるなんて知らなかった